

## ~避難民・双葉町の記録~



## 日時:2015年 9月 26日 (土)

○午前の部 10:00~12:15 (トーク・交流を11:40~12:10予定)○午後の部 13:30~15:45 (トーク・交流を15:10~15:40予定)

「原発の町を追われて」2012 年/56 分・「続・原発の町を追われて」2013 年/26 分 ◆制作・編集・ナレーション:堀切さとみ

◆上映会場:夢みなとシアター(夢みなとタワー3F)

<住所 鳥取県境港市竹内団地 255-3>

◆チケット:前売500円 当日700円 小学生以下:無料

◆主 催:グリーンコープ生活協同組合とっとり

≪お問い合わせは下記まで≫

- ◎ (月) ~ (金) 9:00~18:00 グリーンコープ生活協同組合とっとり ☎0859-34-6661(担当:渡辺)
- ◎ 託児も受け付けます(前売りチケットをお申込み時に受け付けます) … 当日は受付できませんので予めご了承ください。但し、6カ月以上からの受付です。託児料は無料です。託児場所は「夢みなとタワー」の「第3会議室(2F)」です。

## 原発の町を追われて ・ 避難民・双葉町の記録 ・ 」作品解説 (HPから引用)

福島第一原発のお膝元にあり、2012・3・11 直後、全世帯が避難勧告を受けた双葉町。事故から二週間後、町は役場機能を埼玉県加須市に移し、廃校になった高校(旧騎西高校)を拠点に避難生活を始めた。日本初の原発避難民。放射能から逃げるしかなかった人々。「俺たちはどうせ忘れられていくのさ」という避難民のつぶやき・・・。



4月。騎西高校には双葉町民のおよそ二割にあたる 1400 人が避難生活を始めていた。東京では脱原発のデモが起こっていたが、原発と共に暮らした町民の心境は複雑だ。原発を信じてきたこと。何もかも失ったこと・・・。いつ帰れるかアテもない中で、避難民たちはそれぞれの思いを語りはじめた。

毎日のように、ボランティアや有名人によるイベントが行われたが、避難してきた人たちは何もすることがない。そんな中、双葉町民は遠い埼玉の地でふるさとの盆踊りを再現させるが、不自由で先の見えない避難生活は変わらない。

親子代々、東京電力で働いてきた田中さん一家は、爆発当時原発の中にいた息子のことを誇りに思っている。「今までずっと放射能を浴びてきたんだ」と言って、福島に戻っていった。その一方、望郷の念を捨て、騎西高校で書道教室を開く書道家もいた。去る人、残る人・・・町民はそれぞれの一歩を踏み出したかにみえる。

11月。ついに騎西高校で、町民自身が思いのたけをぶつけ合う集会を開いた。賠償も進まず帰還のメドもたたず、ほったらかしにされた人々は「このままでは、国と東電に殺される」とさけぶ。

